

愛別離苦・俱会一处

相次ぐ台風の接近により、日本各地で大変な被害が起りました。佐賀県や千葉県の近所では延岡市など。皆さんの自宅では被害はありませんでしたか？当山は被害はありませんでしたが、強風による落ち葉、落下した桜の枝などに悩まされました。

特にお彼岸のお中日、境内中に落ち葉が拡散し、門徒会館の玄関前には大量の落ち葉が風で吹き積もっていました。雨で落ち葉は地面についてはわくこともできず、あきらめて彼岸会法要をつとめたことでした。台風十八号は西寄りを通過したので強風は吹くことなくほつとしました。

そんなお彼岸の最中、役員勤務時代の上司の奥さまがお亡くなりになられ、二十四日にプリエール高千穂の葬儀に参列しました。奥さまと二人でお暮しだったので、辛いお

別れだったろうなと思ったことでした。

葬儀前に尊前でお参りをし、お悔やみを申し上げると、「わざわざ鞍岡からありがとうございます。うございませう」とご挨拶くださいました。

葬儀最後の喪主あいさつではたんだんとご挨拶を申されましたが、「私のところに嫁いで六十年を超えました。嫁いできてくれ、私を支えてくれた妻に感謝します」とのお言葉に、お二人の深いつながりがうかがえじんときました。愛別離苦の悲しみ、苦しみをぞかしだつたでしょう。

お釈迦さまは死の苦しみ、愛するものと別れなければならぬ苦しみをお教えくださいました。私たちは「生まれたいは必ず死ぬ」ことを知っています。これはだれもが認めなくてはならない真理です。と同時に、「愛するものと別

れたくない」という願いは強烈です。素直な感情でしょう。この二つの矛盾。「別れたくない」としがみついている者同士を、むりやり別れさせる現実。ここから「愛別離苦」という、やりきれない苦悩が起ります。

お釈迦さまはこれを四苦八苦の一つとして根本苦に挙げておられます。

自分で解決できない悲しみ、苦しみ、この上はみんな引き受けてくださる阿弥陀さまにおまかせするよりほかありません。「まかせよ」と仰ってくださいる阿弥陀さまにおまかせしましょう。



また会える世界があるとおっしゃられるのです。『仏説阿彌陀經』にお示しの「俱会一处」のご縁、源信僧都が『往生要集』のなかに「浄土における十種の樂」の一つに数えておられます。

故人は阿弥陀さまのおはたらきによってお浄土へ往生しておられます。同じ信心に生きた人々は、みな安樂(極樂)浄土で会うことができるのです。

今月三日は母の十七回忌でした。明年三月二十日は父の十七回忌です。私もいつか娑婆の縁尽きる日が参ります。その時、阿弥陀さまのおはたらきをいただいて父母の待つお浄土へ往生させていただき、会いたいと思うことです。

法語の世界

《原文》

奥州に御一流のことを申しまぎらかし候ふ人をきこしめして、前々住上人奥州の浄祐を御覽候ひて、もつてのほか御腹立候ひて、さてきて開山聖人(親鸞)の御流を申しみだすことのおあさましきよ、にくさよと仰せられ候ひて、御齒をくひしめられて、さて切りきざみてもあくかよあくかよと仰せられ候ふと云々。仏法を申しみだすものをば、一段あさましきぞと仰せられ候ふと云々。

〔蓮如上人御一代記聞書〕二百四十一

《現代語訳》

奥州に、浄土真宗のみ教えを乱すようなことを説いている人がいるということをお聞きになつて、蓮如上人はその人、浄祐を奥州から呼び寄せ、お会いになりました。上人はひどくお腹立ちで、「さてもさても、ご開山聖人のみ教えを乱すとは。何と嘆かわしいことか。何と腹立たしいことか」とお叱りになり、齒がみをしながら、「切りきざさんでも足りないくらいだ」と仰せになりました。ご法義を乱すものごとを「とりわけ嘆かわしい」と仰せになつたのです。

2019 (令和元) 年 恩講・秋参り日程 (予定) のお知らせ

本年の恩講・秋参り(家庭報恩講)の日程についてお知らせします。恩講の期日が未定の地区(古賀西、波帰)は早目に相談をお願いします。遠方(熊本市・益城町・御船町・宇城市、延岡市・日向市・宮崎市、高千穂町)と中入・大平、渡瀬、山都町の秋参りはハガキでお知らせします。なお、葬儀が入りますと秋参りの日程は変更します。お茶の接待はご遠慮申し上げます。

■ 恩 講		■ 秋 参 り	
10月	27日	10月	15日
	31日		16日
11月	1日		17日
	9日		18日
	12日		31日
	17日	11月	9日
	18日	11月	12日
	19日		
	20日		
	22日		
	23日		
	24日		
12月	4日		